



■ 0 ■ 事前準備

このマニュアルは、かんたんAV化キットの組み込み方について説明しています。
このマニュアルは、直接AVケーブルを接続する方法について説明しています。
本体の加工と、基板の組み立てに必要な工具類を準備します。

【必要な工具類】

+	ドライバー
	ハンダ
	ハンダゴテ
	ラジオペンチ
	ニッパー
	導通テスター
	ビニールテープ(絶縁用)

【あると便利な工具類】

	ホビー用のクランプ
	ワイヤストリッパー





■ 1 ■ パッケージ内容の確認

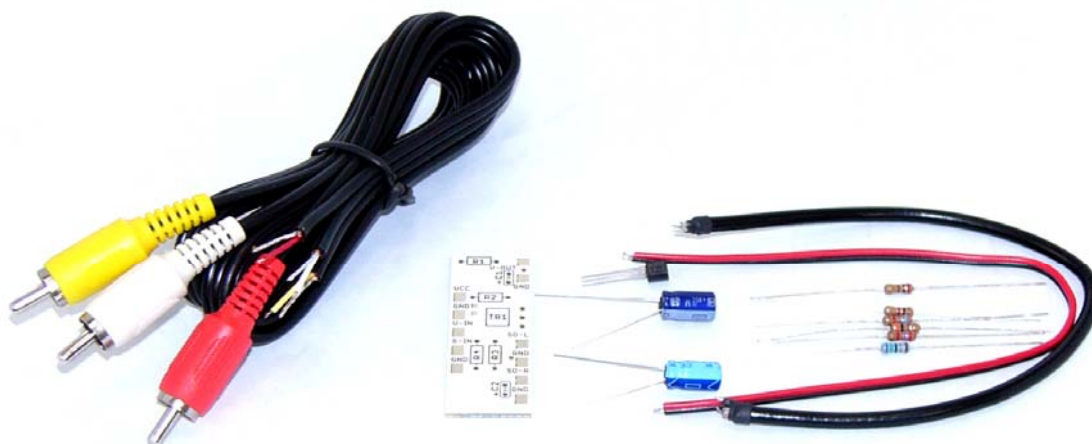
パッケージに同梱されているパーツを、下記のパーツリストを参考にして確認します。
下記のパーツリストは、組み立てを行う際にも使用します。

【かんたんAV化キット パーツリスト】

記号	コード	パーツ
---		基板 かんたんAV化キット
R1	紫緑[黒/黒金]	金属皮膜抵抗[青] 75Ω
R2	橙黒[茶/黒黒] / 赤黒[茶/黒黒]	カーボン抵抗[茶] 300Ω (前期用) / 200Ω (後期用)
R3	茶黒[赤/黒茶]	カーボン抵抗[茶] 1.0kΩ
R4	青灰[赤/黒茶] / 赤紫[赤/黒茶]	カーボン抵抗[茶] 6.8kΩ (前期用) / 2.7kΩ (後期用)
C1		電解コンデンサ 330μF
C2		電解コンデンサ 100μF
C3		チップコンデンサ ※発振ノイズが気にならない場合は不要です。
TR1	A1015	トランジスタ 2SA1015
---		線材 ビデオ/GND用 75Ω 同軸ケーブル(1.5C-2VS-1C) 20cm
---		線材 オーディオ用 撚り線ケーブル (VFF-0.3-1C) 20cm
---		線材 電源用 撚り線ケーブル (VFF-0.3-1C) 20cm

注意) カラーコードが5本ラインの抵抗の場合は、3本目のカラーコードを下記に置き換えてご覧下さい。

- ・黒 → 黒金
- ・茶 → 黒黒
- ・赤 → 黒茶
- ・橙 → 黒赤





■ 2 ■ 線材の加工

線材先端の被覆を剥がし芯線を撚ります。さらに、撚った芯線をハンダします。
75Ωの同軸ケーブルのGND側を、熱収縮チューブなどで絶縁しておく会更好です。
写真の様に加工します。



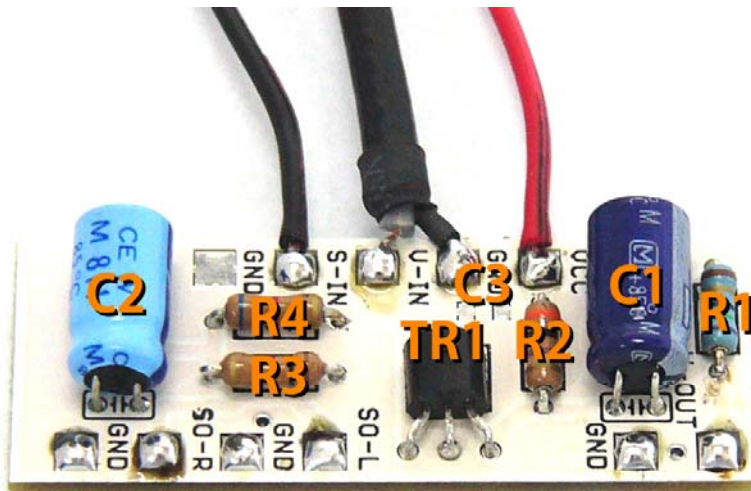
■ 3 ■ 本体の分解

本体裏の6本のネジを外すと、かんたんに裏蓋が開きます。その後、メイン基板(+RFユニット)を留めているネジと、電源ボタンを留めているネジを外します。これで安全にメイン基板を分離することが出来ます。RFユニットとメイン基板が1つに合体しているものが後期型で、分離しているものが前期型です。
「HVC-CPU-05/06/07」および「HVC-CPU-GPM-01/02」のシルク印刷がある基盤でのみ動作確認しております。それ以外のロットでは動作保証はありません。

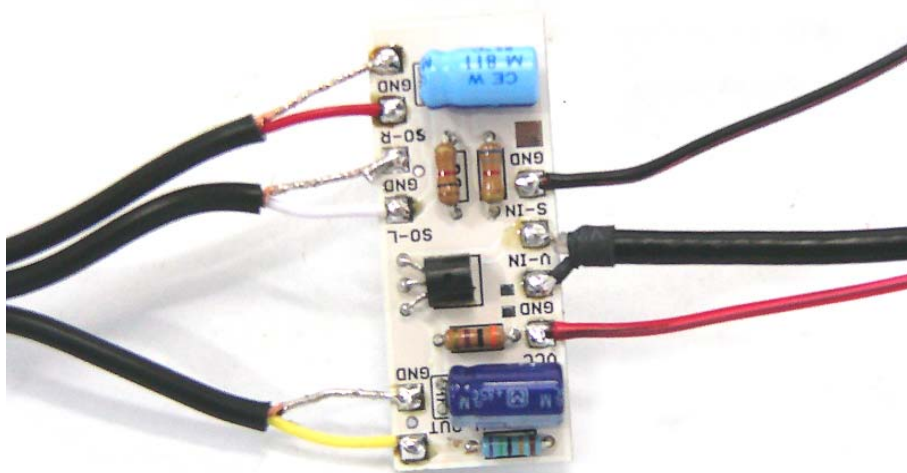


■ 4 ■ かんたんAV化キットの組み立て

写真を参考にして、かんたんAV化キットを組み立ててください。
 基板の裏側に、絶縁の為にビニールテープを貼っておきます。
 C3のチップコンデンサは実装する必要はありませんが、発振によるノイズがひどい個体の場合は、実装する事をお勧めいたします。



AVケーブルを、下記の写真を参考にして接続します。

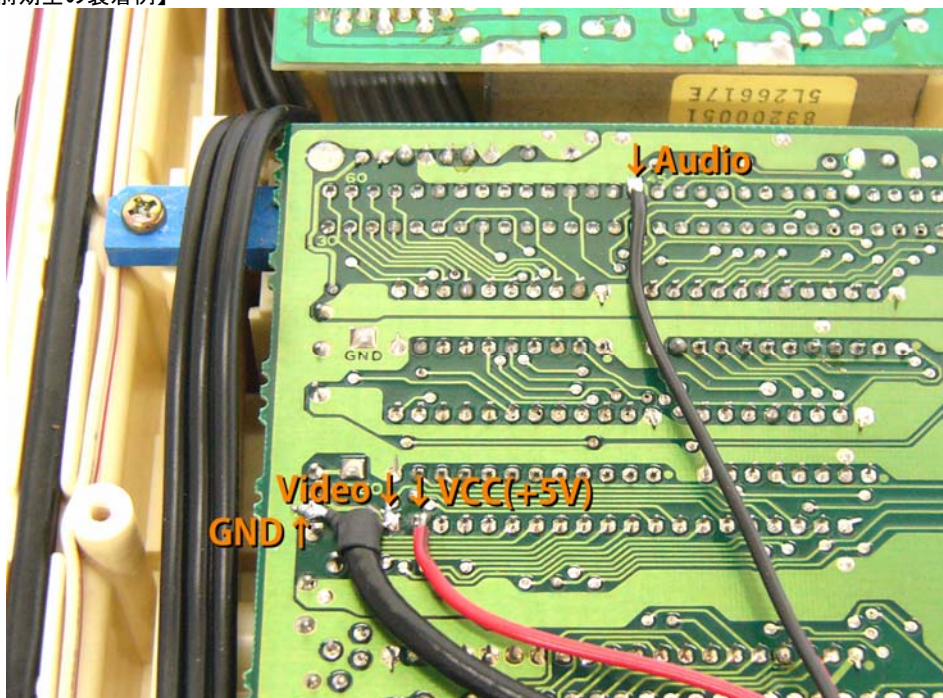


■ 5 ■ かんたんAV化キットの組み込み

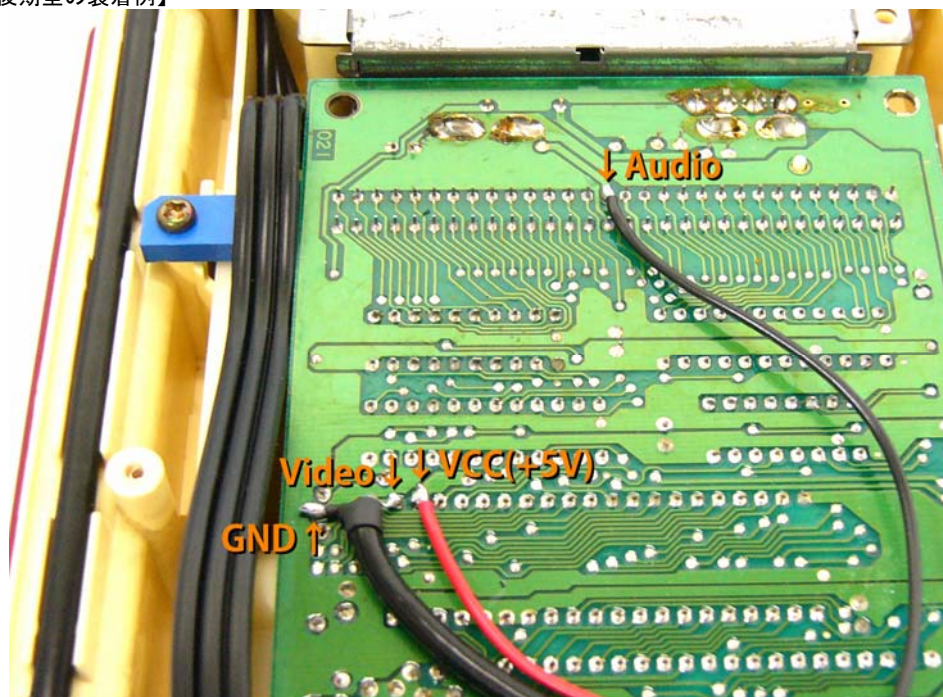
下記のように線材をハンダ付けします。

- ・「VCC」に、メイン基板のVCCから電源用線材を接続。
- ・「GND」に、メイン基板のGNDから75Ω同軸線材のGND側を接続。
- ・「V-IN」に、メイン基板のPPU-21pinから75Ω同軸線材の芯線を接続。
- ・「S-IN」に、メイン基板のソケット46pinからオーディオ用線材を接続。

【前期型の装着例】



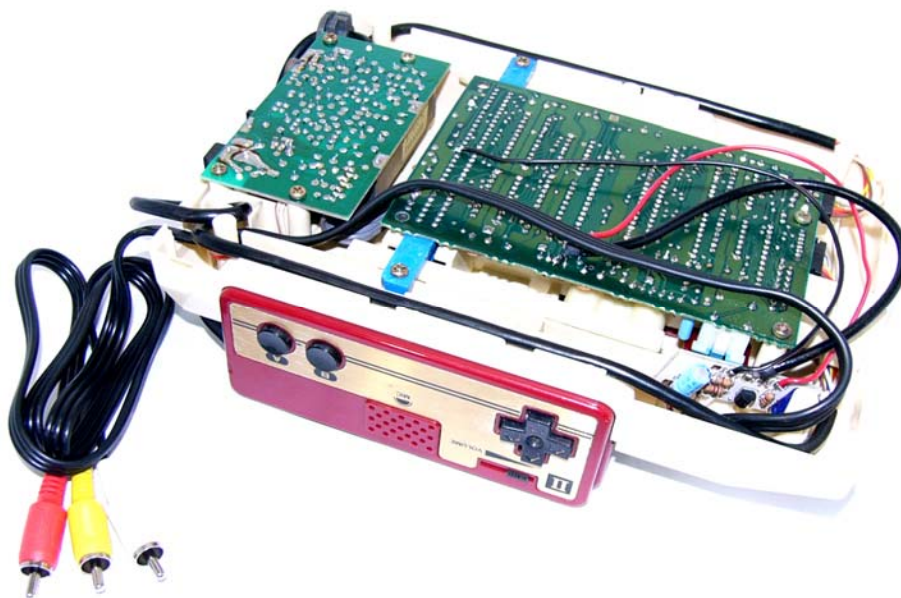
【後期型の装着例】



■ 6 ■ 動作チェック

仮組みをして、動作チェックを行います。
仮組みの前に、ハンダ付け部分がショートしていたり、外れていたりしないかどうか十分にテスターでチェックしてください。

【前期型の組み込み例】



【後期型の組み込み例】



■ 7 ■ 本体の組み立て

動作確認出来ましたら、ネジ留めし、本体を組み立てて完成です。

